

アルコール依存症疑いケースの対応について

まずはじめに

アルコール問題を抱える患者が治療で回復しつつあるときにお酒を飲んで、再度体調が悪くなったことはありませんか？
医療者が患者のために言った言葉が、患者に伝わらず、むなしさや寂しさを感じたことはないですか？

酒



アルコール問題を抱える患者のなかには、日々の飲酒習慣が長期間続き体調不良を訴える人もいれば、患者本人が抱える問題から生き延びるために飲酒し続ける人もいます。その結果アルコール依存症になってしまうと、意志の力で飲酒量を調整することが困難になります。患者本人で飲酒をコントロールしようとしても失敗を繰り返し、アルコール依存症の状態が進行していくこともあります。

アルコール健康障がい、アルコール依存症の治療・支援について、
アルコール依存症専門医療機関・相談機関と一緒に考えていきませんか？

アルコール依存症とは

- ・酒量を自分の意志でコントロールできなくなる病気です
- ・アルコール依存症は回復できる病気です
- ・患者本人は「飲酒したい」という気持ちと「減らした方がいいのではないか」という気持ちの両方をもっている場合があります
- ・患者より家族が先に相談することが患者本人の回復の助けになることがあります



～アルコール依存症疑いの患者への対応ポイント～

飲酒問題を抱える患者が通院を継続し、将来的に専門の医療機関・相談機関につながるために、対応ポイントを以下3つにまとめました。

ポイント1 スクリーニングを実施しましょう

<アルコール問題のチェックリスト「CAGE 質問票」>

- ①あなたは今までに、自分の酒量を減らさなければいけないと感じたことがありますか？
- ②あなたは今までに、周囲の人に自分の飲酒について批判を受け、わずらわしく思ったことがありますか？
- ③あなたは今までに、自分の飲酒についてよくないと感じたことや、嫌悪感をもったことがありますか？
- ④あなたは今までに、朝酒や迎え酒を飲んだことがありますか？



アルコール問題を抱える患者は、①にチェックされる方が多いです。①について「どういうことでそう思いましたか？」「お酒を減らすためにどんなことをしましたか？」等、質問することで、患者本人のなかで治療意欲がでてきやすくなります。

ポイント2 CAGE質問票で2項目以上あてはまる人に アルコール依存症の情報を伝えてください

例)「依存症になると、その人の意志で酒量をコントロールすることが難しいです」
「依存症は、適切な対処をすれば回復できる病気です」

※依存症情報は厚生労働省作成のリーフレット(「依存症って?」)を参考にしてください。

ポイント3 CAGE質問票で1項目以下チェックした人には一般情報を 伝えつつ、心配しているメッセージを伝えてください

例)「お酒を飲んだ後はボーッとしてミスしやすい、とよく聞くので、そのときは飲み方について一緒に対策を考えましょう」

※患者自身に抵抗が強くなければ SNAPPY ツール (<https://snappy.udb.jp/>)を使用することもお勧めします。

※医療者が寄り添うことで、患者本人から自発的に飲酒問題について話し出したり、「つらい」「飲酒をやめたい」という言葉がでてきやすくなります。その際は、専門の医療機関・相談機関の案内をお願いします。

<SNAPPY ツールQRコード>



QRコードは
(株)デンソーウェブの登録商標です



～アルコール依存症疑い患者の家族たちとの連携・支援～

アルコール依存症は周囲の人たちを巻き込みます。周囲の人たちが疲弊することで患者本人の飲酒習慣が変わらず、さらに回復しづらい状態になることがあります。家族(身近な人)が来院されたときの対応ポイントを以下3つにまとめました。

ポイント1 なるべく一言お声かけください

家族や身近な人はアルコール問題について相談したいと思っても、患者本人が主治医と家族(身近な人)に会わせたがらない場合があります。もし家族等に会う機会がありましたら、一言お声かけください。

例)「患者さんと一緒に来ていただきありがとうございます」

ポイント2 可能であれば個別で話を聞いてください

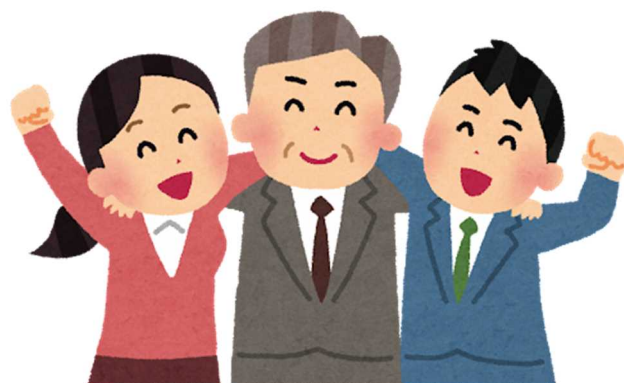
家族や身近な人が、主治医と会っても患者本人の前ではお話できないことがあります。可能であれば、患者とは別に個別で話を聞いてください。



ポイント3 支援機関等の情報をなるべく家族等にお伝えください

アルコールの問題に対してどうしていいのかわからない家族(身近な人)がいます。なるべく支援機関等の情報を家族等にお伝えください。特に患者本人の前で主治医の先生から情報を渡されると、家族等は支援機関等に行きやすくなります。

※患者本人が専門機関に行くことを拒否しても家族(身近な人)が、支援機関等につながり、元気を取りもどすことで、将来的に患者本人の状態が回復することがあります。



公的支援機関情報

○アルコール依存症相談拠点

・大分県こころとからだの相談支援センター

予約・相談電話：097-541-6290

【受付時間】 平日 8:30～12:00、13:00～17:00

<センターホームページQRコード>



QRコードは
(株)デンソーウェーブ
の登録商標です

○保健所・保健部の地域保健課(管轄)

・東部保健所(別府市・杵築市・日出町)	0977-67-2511
・東部保健所国東保健部(国東市・姫島村)	0978-72-1127
・中部保健所(臼杵市・津久見市)	0972-62-9171
・中部保健所由布保健部(由布市)	097-582-0660
・南部保健所(佐伯市)	0972-22-0562
・豊肥保健所(竹田市・豊後大野市)	0974-22-0162
・西部保健所(日田市・九重町・玖珠町)	0973-23-3133
・北部保健所(中津市・宇佐市)	0979-22-2210
・北部保健所豊後高田保健部(豊後高田市)	0978-22-3165
・大分市保健所(大分市)	097-536-2852

医療機関情報

○アルコール依存症治療拠点機関・専門医療機関

・大分友愛病院 0973-23-5151

○アルコール依存症専門医療機関

・大分丘の上病院 097-597-3660
・仲宗根病院 097-541-1040
・帆秋病院 097-535-7220

自助グループ

アルコール依存症からの回復を目指す人たちが、自助グループをつくって地域で活動しています。依存症は人間関係によって回復できる病気です。同じ病気の回復者、仲間の声は患者本人の心に響きます。話さなくても聞くだけでも参加できます。

ぜひ、地域の自助グループ情報をアルコール依存症疑いの患者にお伝えください。

家族や身近な人だけでも参加できるグループもあります。患者本人が入院中のときに家族や身近な人が自助グループに行くことで、退院後、患者本人の状態回復に良い影響がでることがあります。断酒会とAAは医療関係者も参加できます。

- ・一般社団法人 大分県断酒連合会
- ・AA(アルコールリクス・アノニマス)
- ・アラノン

※大分県こころとからだの相談支援センターのホームページに随時自助グループ情報を更新してますので、ぜひご覧ください。